



「この瞬間を大切に」 ～ 今がチャンス！～

校長 坂本 勉

令和6年度の初めに一遍の詩を紹介します。この詩は埼玉が生んだ詩人、宮澤章二さんの「風鈴抄」という詩集に収められた『流れのなかで』という詩です。

皆さんには「あの時 もう少しきちんと聞いておけばよかった」「あの時ちゃんと話しておけばよかった」「あの時もっと集中して取り組んでおけばよかった」と思い返すことはありませんか。この「あの時」とは、言い換えればチャンスの時であったのかもしれませんが。「あの時」というチャンスを逃さないように、「言うべきことは、その時いえる力」

聞けるときに聞いておかないと 決して聞けないコトバがある
言えるときに言っておかないと 再び言えないコトバがある
つかめるときにつかんでおかないと 死ぬまで無縁の宝がある
みがけるときにみがいておかないと 光らぬまま朽ちて行く宝がある
得たものを失うその数よりも得られずに失われたものたちの数の多さ
わずかの知恵とわずかの努力でそれらに触れ得たかも知れないのに
新春の光がなでる新しい日記は最初の頁から最後の頁まで純白
記せるときに記しておかないと二度とは記せない記録がある

が必要だと思います。「あの時」と後悔しないように「今」を常に意識してほしいと思います。

ただ、そうは言っても、これってすごく難しいですよ。だって、その時気づかずに、後になって気づくのが後悔というものなのですから。いつチャンスが来るかわからない…とすれば、「今がチャンス」と、「今」を常に意識することを大切にしてみたらどうでしょう。後悔しないためには「あの時」である「今」を頑張ることしかないように思います。

また、「言えるときに言っておかないと再び言えないコトバ」とは、どんな言葉でしょうか。私は、次の3つを考えます。それは、「はい」「ありがとう」「ごめんなさい」です。これを言いそこなうと人間関係がおかしくなってしまうときがあります。まずはこの3つです。子供たちには、自然とうまく使えるようにしていきたいものです。

最後に、「みがけるときに みがいておかないと光らぬままに 朽ちていく宝」とは何のことでしょうか。これこそ、学校での勉強であり、体を鍛えることであり 仲間と切磋琢磨し、思いをつなぐことだと思います。子供たちが新しい知識を吸収し、創造する力は無限の可能性を秘めています。詩では、毎日毎日の「わずかな知恵と わずかな努力」があればと言っています。この積み重ねこそが大きな成果を生むものと思います。今日から新年度のスタートです。新しい学級、新しい先生との生活が始まります。今、何が大切かをしっかり考えて、新たな目標に向かって頑張っていきましょう！